

# 平成30年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長  
木の実幼稚園 園長 今川公平

## ○本園の教育目標

1. 生活指導上の基本目標
  - ・ あいさつが出来る ・ 感謝の気持ちが持てる ・ けじめがつけられる ・ 自分のことは自分で出来る
  - ・ 友達のことを思いやる事が出来る
2. 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
  - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
3. 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
  - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
4. 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びが工夫できる子に育てる。
5. いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

## A、本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	教職員の「働き方改革」を三年計画で実施し、その第一ステージとして労働時間の見直し、残業時間に見合った手当を制度化
2	早朝預かり保育を開始・放課後の預かり保育の体制強化
3	園庭環境の機能強化と安全性向上
4	幼稚園出入り管理のシステムの見直し
5	年少児向け屋外遊具の改善
6	特別支援教員の増員・強化
7	教職員の研修強化

## B. 評価項目の設定理由

項目	内容
1	現在まで、教職員の超過勤務については毎日平均2時間が実態であり、残業手当については、公立学校の先例に従い本俸の4%を教職調整手当として支給していたが、現状の労働実態とかけ離れたものになっている。これを是正し、合わせて教職員の健康と労働意欲向上の為、残業時間をどう短縮するかが大きな課題である。
2	早朝午前8時からの預かり保育の要請が少なからずあり、また放課後の預かり保育も、平均25名から30名の希望者が継続してある状況で、2人の教員体制では保育の質が十分担保出来ない状態である。また、手作業による毎日の預かり受付業務も改善が必要である。
3	職員室棟前の運動場は、天候によって砂塵や教室等への泥の入り込みが多く、廊下部分も現状のモルタル仕上げでは、雨天時の安全に課題があり、改善が必要である。
4	幼稚園正門の出入り管理については、テレビインターホンと電気錠で長年対応してきたが、毎日多数の出入り対応に追われ、教職員の負担感が強い。より安全で確実な新システムが必要である。
5	東側園庭の端に設置されている、2歳から3歳児向けの小型遊具が老朽化しており、新しい発想での遊具デザインと導入が必要である。
6	毎年、特別支援が必要な園児が増える傾向があり、経験のある専任教員を増員し、園児と教員をサポートする体制づくりが従来に増して必要である。
7	従来の教員によるプロジェクト保育の実践発表と交流は大きな効果を上げてきたが、子どもの活動・遊びの内容をより一層深研究し、学ぶ必要がある。

### C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	<p>まず、現状の教職調整手当の4%支給を見直し、月5時間残業分として5%に底上げする。これをオーバーする残業については、日々残業時間を記録・申請し、規定に従い申請、教職員それぞれが労働時間を自己管理する体制を確立し、サービス残業が無くなる取り組みを行う。</p> <p>また、清掃支援員の導入、ITシステムの積極的活用、保護者へのお知らせのペーパーレス化、会議の見直し等、教職員の業務そのものを見直し、教育に専念できる体制づくりを進めていく。</p>
2	<p>まず、預かり保育担当の教員を全員専任教員3名に増員し、1名が早朝預かり担当、残り2名が放課後預かり保育を担当する体制とする。3名がチームで担当し、よりきめ細かな保育が出来るよう進める。また、年度内に書類による申し込み、名簿作成等の事務仕事を可能な限りIT化していくシステムを導入する計画(保護者もスマホによって申し込みが可能となるシステム)である。</p>
3	<p>5月早々に、職員室棟前の運動場を全て人工芝する。またアトリエ棟と職員室棟の間のアプローチのゴムチップ貼り付け、正門から職員室棟までのアプローチのすべり止め工事なども同時に進め、安全性と美観向上工事を進める。</p>
4	<p>人の出入りをカメラによって確実に把握できる新システム「カメレオンコード」を使って、保護者全員に新しいIDカードを発行、カメラによる自動認証により出入りが可能となるシステムを年末までに導入する。このシステムをベースとして、次年度以降園児出欠管理をIT化し、教職員の負担軽減につなげていく計画である。</p>
5	<p>教職員によるデザイン検討委員会を立ち上げ、年少児を対象としたオリジナル木製遊具を計画する。既設の大型遊具との共通化を図り、様々な遊びが可能な遊具を作り上げる。</p>
6	<p>従来のパート教職員だけではなく、経験豊富な専任教員を採用し、教員4人体制で特別支援教育を担当、手厚い支援を目指す。</p>
7	<p>園内研修だけではなく、園外での研修を精選し、遠近に関わらず、質の高い園外研修会に教員を派遣し、最新の研究成果を教職員で共有できる機会を増やしていく。</p>

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は30年度末、31年3月に実施する。